

植物と人々の博物館メールマガジン

第 85 号 2022 年 3 月 1 日発行

2023 年は国際雑穀年



暖かくなると、身も心も緩み、お日様に感謝したいです。武蔵野公園のクジラ山や遊水地は、保育園児や大学生、犬や野鳥たちでにぎわっています。中高年も走ったり、歩いたり、生き物がもうそこまで来た春を先取りしているようです。幸せな笑顔があふれていて、とてもうれしくなります。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

1. 植物と人々の博物館

友の会会員になってくださると嬉しいです。

1) 開館・作業予定日：冬季は休館します。ウィルスが収まったら、月に1～2日は開館します。

2) 民族植物学ノオト： 第15号電子版は2022年3月末発行予定です。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ(下記:ミュージアムグッズの項)で読めます。
<http://www.ppmusee.org/goods.html>

3) 電子書籍：植物と人々の博物館ホームページ(ミュージアムグッズ)に電子書籍(既刊)の項で読めます。『環境学習原論』増補改訂版および『第四紀植物』を公開しました。本年は一部公開中の雑穀の民族学関係の書籍『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』、『日本雑穀のむら』の読み書きを再開し、順次公開します。これら4冊のまとめとして“Essentials of Ethnobotany”の一部公開を進めます。発行予定：『降矢静夫書簡集』(降矢静夫・安孫子昭二)、『山村農人降矢静夫対談集』(降矢静夫・木俣美樹男)、これらは書き終えたら、電子出版にします。クリンネス(木俣美樹男 2022)は偶数月に植物の香りを話題に連載継続します。

5) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」『種から育てよう』(有機農業研究会編)、『花・虚往実帰』(井上典昭著)、「清く豊かに川は流れる、2020年活動報告」(桂川・相模川流域協議会)ほか。ありがとうございます。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のためにご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。ご寄付をいただくとありがたいです。

郵便振込口座は下記です。講座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

講座運営の企画を行うために企画室を作りました。メンバーに参加、協力いただけるとうれしいです。ぜひ、ご連絡ください。セミナーの動画や予習・復習資料 pdf および 2022 年の予定など、ご案内は下記のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。世代間の信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。ご案内や資料（ZOOM の URL）などお送りします。

企画室事務担当 kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男あて

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NPO4 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。今この時に、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンスを日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは上記サイトにあります。

○予定

第 4 回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：3 月 13 日（日）14：00～15：30

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）（定員：会場 15 名、オンライン 20 名）

話題：（仮）国連家族農業の 10 年

話題提供者：関根佳恵さん（愛知学院大学）、（30 分、質問 30 分、座談会 30 分）。

第 6 回環境楽習会

日時：4 月 24 日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館および ZOOM（定員：会場 20 名、オンライン 100 名）

話題：（仮）公園やみどりの価値や機能（30 分、座談会 60 分）。

話題提供者：佐藤留美さん（NPO birth バース）

○報告

第 5 回環境楽習会

日時：2月27日（日）10：30～12：00 18名参加で熱気のある座談会でした。

話題：渡辺隆一さん（信州ESDコンソーシアム）、自然との共生と地域の再生。

3. 雑穀街道普及会：

FAO世界農業遺産申請のために、雑穀街道協議会への三年次企画を検討しています。ご意見をいただければうれしいです。

○ 報告

1) 自給農耕ゼミ（佐野川）、上野原駅からバスがあります。

佐野川の宮本さんの畑で雑穀栽培講習会を再開します。環境学習市民連合大学と連携して行います。

雑穀栽培の手引きの配布：播種、栽培したい方に少しずつ差し上げます。栽培・加工・調理法など必要に応じてお伝えします。野菜などの家庭菜園作りも含めます。自家採種した雑穀種子は栽培してくださる方に差し上げますので、費用はいりませんから、メールください。簡単な方法は次のサイトにあります。

2) 東京学芸大学創基150年記念の雑穀発泡酒の準備を続けます。

3) 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。現在は第5章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletsn/jnpmilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、「街道美味」は下記のホームページをご覧ください。会費は任意、会の規模が大きくなり、事務経費が必要になるまでは求めません。少しずつ、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

4. 自然文化誌研究会

主な活動予定は下記ウェブサイトにあります。2月16日に総会がありました。桂

川・相模川流域協議会およびグリーン連合に加入することを承認しました。両団体に入会申し込みをしました。茶摘みと野草を食べる会は学芸大学に入構できるようになったら、適時に開催予定。

5. ワノサト準備室

1月28日に、ワノサト・プロジェクトと桂川・相模川流域協議会市民部会の方々が上野原市長に面会し、元島田中学校を借用してエコ・ヴィレッジをつくる企画を提案しました。1月30日に、ワノサト・プロジェクトのコア・メンバーと打ち合わせをしました。植物と人々の博物館／雑穀街道普及会も志は近いので、3者協議会（ワノサト準備室）を始める方向で、2月24日から話し合いを始めました。

6. 桂川・相模川流域協議会

4月入会登録されることになり、2月26日に開催された市民部会にはオブザーバー参加しました。自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会の紹介をしたところ、詳細な説明についてはセミナーなどを開催してほしいとのことでした。とりあえず、活動紹介のために、関連するウェブサイトを、メーリングリストに送りました。50年近く鶴川流域で活動してきたのに、自然文化誌研究会の活動は市民にも行政にもほとんど知られていないようです。

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ベトナム）ほか

公式HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事：宮本透

民族植物学関係HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会／トランジション小菅**（山梨県小菅村）：

代表 亀井雄次（山梨小菅村）

**自然文化誌研究会**：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

**環境学習市民連合大学** <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

写真



ハケ上から見た富士山、マンサクの花、自然観察センター、大沢の田圃と野川